

本当の自立とは!?



東京大学先端科学技術研究センター

准教授 熊谷 晋一郎 先生

親は、「社会というのは障害者に厳しい。障害を持ったままの状態です。一人で社会に出したら、息子はのたれ死んでしまうのではないか」と心配していたようです。でも、実際に一人暮らしを始めて私が感じたのは、「社会は案外やさしい場所なんだ」ということでした。

大学の近くに下宿していたのですが、部屋に戻ると必ず友達が2〜3人いて、「お帰り」と迎えてくれました。いつの間にか合鍵が8個も作られていて、みんなが代わる代わるやってきては好き勝手にご飯を作ったり食べていく。その代わりに、私をお風呂に入れてくれたり、失禁した時は介助してくれたりしました。

また、外出時に見ず知らずの人にトイレの介助を頼んだこともあり。たくさんの方が助けてくれました。こうした経験から次第に人や社会に関心を持つようになり、入学当初目指していた数学者ではなく、医学の道を目指すことを決めたのです。

それまで私が依存できる先は親だけでした。だから、親を失えば生きていけないのでは、という不安がぬぐえなかった。でも、一人暮らしをしたことで、友達や社会など、依存できる先を増やしていけば、自分は生きていける、自立できるんだということがわかったのです。

「自立」とは、依存しなくなることだと思われがちです。でも、そうではありません。「依存先を増やしていくこと」こそが、自立なのです。これは障害の有無にかかわらず、すべての人に通じる普遍的なことだと、私は思います。

(出典 日本大学生協連HPより引用)

仏教とは？

中国唐の詩人・白楽天は禅を好み、禅宗の老僧に「仏教の真髄とは何か」と問うたところ、この偈を示されました。

『すべての悪しきことをなす 良いことを行ひ 自己の心を清める事 これが諸々のブツダの教えである』

白楽天は「こんなことは3歳の子供でもわかるではないか」と言ったが、老僧に「3歳の子供でもわかるが、80歳の老人でもできないだろう」とたしなめられたため、謝ったといいます。

これは七仏通誡偈【しちぶつ つうかいげ】という教えです。誰もが納得する当たり前なことですが、「知っていること」と「行うこと」には、大きな差がありますよね。いくら良いことが分かっていたとしても行動が伴わなければ、知らないことと同然です。

すべての悪いことをしないということは、盗んだり、殺したりはもちろん、悪口を言うこともしかりです。ニュースで毎日のように見る強盗や殺人もそうですが、悪いことをしている人は、大体悪いことをしている自覚はありません。

そして、良いことというのは自分に都合の良いことではなく、自他ともに幸せな事と考えた方が良いでしょう。自分だけの為に都合の良いことは誰にでもできません。

そのような行いの繰り返し「自己の心を清めることになる」つまり行いを正すことによつて、自らの心を綺麗に保つことが出来るということです。

心を清める行いが、自分自身が穏やかに楽しく生きる秘訣とも言えます。